

全国中学校体操競技選手権大会

遵 守 事 項

— 2011 —

(財)日本中学校体育連盟

体操競技部会

(財) 日本中学校体育連盟体操部会 (体操競技)

1. 全国中学校体操競技選手権大会の遵守事項

本競技会での遵守事項を下記の通りとする。

中学校体操界の健全な発展と義務教育の大会としてふさわしいものになることを期待して、ここに遵守事項を示す。役員・指導者・選手全ての共通理解の上に、愛する体操の本質的な発展にみなで努力することを期待する。

記

(1) 役員・監督・コーチ及びテクニカルアドバイザーの遵守事項

- ① 競技会の企画や運営に関し、非協力的言動におよぶことのないようにすること。
- ② 選手が好ましからぬ言動におよんだり、また好ましからぬ服装・態度および化粧などをするのを放任しないようにすること。
- ③ 自ら好ましからぬ服装・姿勢・行為などをする事のないようにすること。
- ④ 監督は監督会議、および開会式には必ず参加しなくてはならない。また、すべての受付(会場、公式等すべての練習も含む)と練習中、および競技中の引率は監督が行うこと。

(2) 選手の遵守事項

- ① 中学生として、また、スポーツマンとして、好ましからぬ言動におよぶことのないようにすること。
- ② 体操競技で要求される要素と無関係な他の要素を誇張したり、もしくは、すり替えようとするような服装・装飾・化粧などをする事のないようにすること。
※例：女子の髪を結ぶ場合はゴム、ピン(色の指定はない)、シュシュなどは良い。
- ③ 選手は開会式には必ず参加しなくてはならない。競技2日目であっても参加すること。代理等は認められない。なお、開会式不参加の場合は棄権とみなす。

(3) 競技器具に関する事

- ・ 使用器具に関しては、大会本部で準備したものを使用する。

(4) 撮影の条件に関する事

- ① 競技フロアでは、撮影しないこと。
(報道の撮影、および大会役員が記録保存のため撮影することはある。)
- ② 競技フロア(アリーナ)に面する範囲内では、フラッシュ、その他、特殊な光源を用いて撮影しないこと。
- ③ 撮影の場合には、必ず許可証を受け取り、見えるように携帯すること。
※撮影許可申請、許可については、大会事務局の指示に従うこと。
- ④ 撮影に要する電源は、バッテリー等を各自用意することとし、体育館の物は提供しない。
- ⑤ 観覧席での撮影にあたっては、観覧者の通行や観覧の妨げにならないようにすること。
- ⑥ 撮影の器具・器材の保管は、所有者各自が責任を持って行う。
※報道関係者は、大会実行委員会が特別に許可する条件により、撮影することがある。場合によっては、競技に支障のない競技フロア内に報道用の撮影エリアを設ける場合もある。
- ⑦ 撮影された映像、画像を本(雑誌等)、Web上に掲載することを禁止する。
*肖像権は大会主催者と保護者にあり、肖像権を使用する場合は、両方から了解を得る必要がある。ただし、日本中体連体操競技部としては選手の肖像権、個人情報保護の観点から例外を除き認めない(例外：報道、中体連等)

2. マークに関すること

- (1) チームは、統一したマークを付けなければならない。
- (2) マークの大きさは自由とするが、役員・審判が見てマークであると判断できる大きさであること（推奨3cm×3cm以上）。
- (3) マークの色は自由とするが、競技服装の色とは明確に区別できるものとする。
- (4) マークはウエストラインより上の胸部、または袖の側方（女子）につけること。
- (5) マークは、学校名を示すものであり、企業等の宣伝となるようなデザイン等は認められない。
なお、監督、選手、コーチ及びテクニカル・アドバイザーが競技フロア内で着用する服装等にも企業の宣伝（クラブ名、マーク）となるデザイン等も認められない。

3. 校旗・部旗等の表示について

- (1) 1校1旗とする（競技・運営に支障をきたすため。それ以外ののぼり等も認めない）。
※個人名の旗も同様とする（団体と個人で出場の場合は合わせて1校扱いとし1旗とする）。
- (2) 旗には企業等の宣伝となるような名称やデザインが入っていない。

4. 競技順序決定方法に関する規定

- (1) 決定は、中央連絡会議（五者会議）の時に実施する。
（方法は競技順序決定方法に関する規定に準じて決定する。）

5. 競技規則・採点規則・その他の全国中学校体操競技選手権大会適用

(1) 規定演技

- 男子：男子規定演技は、2004年日本体操協会制定
（ジュニア規定演技レベル1・2005～）を適用
女子：女子は規定演技を実施しない

(2) 自由演技

- 男子：日本体操協会制定2009年版男子採点規則・2009年度版中学校男子適用規則
女子：日本体操協会制定2009年版女子採点規則・変更規則I

(3) その他の適用

- 1) 全国大会の女子は規定を実施せず、変更規則Iで行うが、ブロック大会、都道府県大会、各都市地区大会のレベルと実態に応じて、規定を予選とする。また自由で変更規則IIを適用することも可とする。

2) 女子の自由演技の採点については次の項目も適用になる。

- *自由演技で2008年まで適用していた規定演技実施も可（規定演技集の参照）
参考まで・従来の規定演技を正しく実施することができれば次のDスコアとなる。

| 種目 | 跳馬 | 段違い平行棒 | 平均台 | 床 |
|------|-----|--------|-----|-----|
| Dスコア | 2.4 | 1.9 | 1.8 | 2.0 |

- *跳馬の着地に着地レーンを適用する。

このラインは5cm幅のテープで明確に線を引かなければならない。この線は踏むことは許されるが、踏み越えることを許されない。

- 3) 男女ともに跳馬において、スプリング式の踏み切り板を使用する場合、3-3-2 3-1-2を基本とするが、中学生の年代を考慮してバネの調節（例：2-1-2にする）を認める。

- 4) 男子の床規定の演技時間は7.5秒を越えた場合は減点対象。

(4) 日本体操協会制定競技規則最新版（日本中体連体操競技部遵守事項を適用）

(5) 競技方法

| 選手権別 | 方 法 |
|--------|--|
| 団体選手権 | 男子は（あん馬を除く）3種目のそれぞれ上位3名の得点合計をチーム得点とする。 女子は（段違い平行棒を除く）3種目のそれぞれ上位3名の得点合計をチーム得点とする。 総チーム得点の規定・自由演技の合計により順位を決定する。 （個人総合選手権とも兼ねる。） |
| 個人選手権 | 4種目の規定・自由演技の合計得点により順位を決定する |
| 種目別選手権 | 各種目の規定・自由演技の合計得点により順位を決定する。 |

※予選において同点の場合には、日本体操協会競技規則に準じて決定する（次の枠内参照）。

- ①全種目得点の中から最低点を除き、残りの種目の合計得点の高い方を上位とする。
- ②同じ得点が続く場合には、同様の方法で残りの種目の合計得点を比較し、高い方を上位とする。
- ③全種目とも得点と同じ場合には、抽選にて決定する。
*男子団体については、チーム得点①～③の方法で比較し、上位を決定する。
- ④女子は①～③でも同じ得点だった場合は、Eスコアの高い方を上位とする（それ以降はもっとも低いEスコアを除いた合計で比較、更に同点は2種目目・・・とする）
- ⑤女子は①～④でも同じ得点だった場合は、Dスコアの高い方を上位とする（それ以降はもっとも低いDスコアを除いた合計で比較、更に同点は2種目目・・・とする）
- *女子団体については、①～⑤でも同じ得点の場合、チーム内の各種目のもっとも高い得点を合計し、高い方を上位とする。

(6) 成績順位及び表彰

- ① 団体：3種目（男子；ゆか、跳馬、鉄棒）（女子；跳馬、平均台、ゆか）の
男子は規定・自由の合計点、女子は自由の合計点

個人：

男子：4種目（ゆか、あん馬、跳馬、鉄棒）の規定・自由演技の合計点

女子：4種目（跳馬、段違い平行棒、平均台、ゆか）の自由演技の合計点

| 選手権別 | 優勝杯 | 楯 | メダル | 賞状 |
|---------|-----|------|-------|--------|
| 団体総合選手権 | 1位 | 2・3位 | 1位～3位 | 1位～6位 |
| 個人総合選手権 | * | 1位 | 1位～3位 | 1位～10位 |
| 種目別選手権 | * | * | 1位～3位 | 1位～6位 |

※ 同点は同順位として表彰する。

- ② 次の場合は成績順位及び表彰の対象としない。

ア、選手が演技すべき種目の全部を演技しなかった場合。

イ、チームが、演技すべき種目の内、演技者が3名未満である種目があった場合。

ただし、

- ・0点は得点として認める。（棄権得点としない。）
- ・男子は自由演技で上記の事項が生じた場合は、規定演技のみの成績によりその対象とする。

- ③ 団体、個人ともに大会の公式練習、および競技中にケガ等をし競技の続行ができなくなり、更に監督から申請があった場合は、審判長の判断により、その後の種目を0点扱いとすることができる（緊急の場合は、口頭の受付も認める）。

(7) 団体選手権に出場する選手の交代について

- ① 団体選手権に限り、申込書に記載された補欠選手と交代することができる。申告は所定の用紙に必要事項を記入し、監督会議開始までに監督会議の受付に提出すること。ただし、女子2日目の競技に参加する団体については、公式練習終了後（本会場練習）の大会本部が定めた時間までとする。

(8) 参加制限

| 地区種別 | 北海道 | 東北 | 関東 | 北信越 | 東海 | 近畿 | 中国 | 四国 | 九州 | 前年度優勝ブロック | 開催地 | 合計 |
|------|-----|----|----|-----|----|----|----|----|----|-----------|-----|----|
| 団体 | 1 | 2 | 3 | 1 | 2 | 2 | 1 | 1 | 2 | — | 1 | 16 |
| 個人 | 3 | 6 | 8 | 4 | 4 | 6 | 4 | 4 | 6 | 1 | 1 | 47 |

※ チーム参加者（正選手及び補欠選手）と個人は兼ねることはできない。

※ 体操競技における開催地とは、大会を開催する郡市をさし、開催地に部がない場合は県から、また県にない場合はブロックから開催地枠を選出し出場することができる。

(9) 競技会場に入ることのできる人数（※練習および競技）

| | | チームリーダー（監督） | 正選手 | 補欠選手 | 監督（チームリーダー） | コーチ or テクニカル ・アドバイザー | 合計 |
|---------|----|-------------|-----|------|----------------|----------------------------|-------|
| 規定・自由演技 | 団体 | 1 | 4 | 2 | チームリーダー と兼務 | (1) | 8 以内 |
| | 個人 | 1 | 5以内 | 0 | 4以内 | 5以内 | 15 以内 |

(10) 監督に関すること

- ① 監督は、男女別学校ごととし、競技中および会場練習、公式練習中の引率を行うこと。なお、競技中の引率だけでなく、大会前日まで、または当日における会場練習、公式練習前も監督が受付をし、練習中も引率を行うこと。監督の受付、引率がない場合は会場への入場、練習を認めない場合もある。
- ② 監督は監督会議・開会式に必ず出席しなくてはならない。
- ③ 監督、選手、コーチ及びテクニカル・アドバイザーの変更は監督会議終了までとし、その後の変更は認めない。
- ④ 原則として大会運営、採点（得点）に関する抗議はできない。ただし、女子のDスコアは競技に支障がない程度でD1に質問できる。時間がない場合は、競技終了10分後まで書面で審判長が受け付ける。
- ⑤ チームリーダーは、監督があたることとする。ただし、男子は規定・自由演技、女子は自由演技における個人組では、原則としてプログラムの一番上になった選手の監督とする。
- ※個人の組は関係監督相互の協議により、そのうち1名があたってもよい。男女とも監督会議の際に各組の監督が集まり打合せを行い、男子は規定終了後の自由は班編成発表後に再度集まり各組で打合せを行う。

- ⑥ 規定・自由演技における個人組でリーダーにならない監督は、選手の種目ごとの練習及び演技にあたって選手席に入場することができる。
- ⑦ 同一校の男子と女子の団体・個人が同一時間帯に競技する時は、コーチまたはテクニカル・アドバイザーはアリーナ内で移動することができる。
- (11) コーチ（外部指導者）及びテクニカル・アドバイザー（中学校の教職員で当該校以外の他の中学校の補助・指導を行う指導者）に関すること
- ① 学校長が認め、所定の用紙にて届け出をした者1名とする。
 ※ただし、当該校以外の中学校教職員は他校のコーチ（外部指導者）にはなれない。
 中学校教員で当該校以外の他の中学校の補助・指導をする場合は、テクニカル・アドバイザー（中学校の教職員で当該校以外の他の中学校の補助・指導を行う指導者）の手続きをしなくてはならない。
 1校にコーチとテクニカル・アドバイザーの両方がつくことは認められない。どちらか1名のみとする。
- ② 活動は、競技場（練習および競技中）での指導・補助のみとする。
 ※競技中、練習中の引率は監督のみであり、コーチまたはテクニカル・アドバイザーが引率することはできない。
- ③ 大会運営・採点（得点）への抗議はできない。
- ④ 監督会議には参加できない（テクニカル・アドバイザーとして登録された教職員で、当該校が出場する場合を除く）。
- ⑤ IDカードは各自が携帯し、いつでも提示できるようにしておくこと。
- (12) 女子ゆか伴奏音楽に関すること
- ① 女子ゆかの音楽伴奏のために、団体では補欠選手の内1名が、個人では当該校の生徒1名を音楽伴奏係としてもよい。（個人の音楽伴奏係は、ゆかの練習及び演技の時に音楽操作区域のみ会場への入場を認める。）
- ② 女子ゆかの伴奏音楽は、カセットテープ・CD・MDを用いることができる。
 競技会場には伴奏用カセットデッキ、CD・MD等のデッキを設置する。
 ※ただし、開催地によっては「MDのみ」などの指定がある場合がある。大会要項で確認すること。
- (13) その他
- ① 大会前の練習、競技会場、練習会場の受付は必ず監督（引率教員）が行うものとする。保護者やコーチまたはテクニカル・アドバイザー、選手のみによる受付は認められない。
 【※受付は大会前の練習から競技の日ごとに行うこと】
- ② 男子は規定演技終了後に速報で自由演技順の発表を行う。男子個人の監督は自由演技班編制後に打合せを行う。監督はその打合せには必ず出席すること。
- ③ 採点間の練習は、競技会場により認めることもある。
- ④ 公開採点はしない。
 ※女子の決定点とDスコアの表示とする。

- ⑤ 女子の跳馬のE審判は線審も兼ねて減点し、ライン減点も含めたEスコアとする。
- ⑥ セパレートタイプのレオタードは練習時でも認めない。
- ⑦ 本大会に於いて撮影された画像、映像のすべてを本（雑誌等）、Web上に掲載することは例外を除き禁止する（例外、中体連事務局、報道など）。
- ⑧ 出場校に得点記録表は配布しない（速報は配布する）。
- ⑨ 器具の高さについて
- *遵守事項1（3）により、各大会は会場に準備されたもので競技を行うこととなっている。
下の高さは参考までであり、必ずこの高さで行わなければならないわけではない。

男子 あん馬：115～116cm（着地マット12cm）
 跳馬：125cm（着地マット18 or 20cm・追加着地マット使用可）
 鉄棒：275cm（着地マット18 or 20cm・追加着地マット使用可）
 *器具の高さはすべて床面よりの高さ

女子 段違い平行棒：高バー250cm：低バー170cm（着地マット20cm）
 ：高バー245cm：低バー165cm（着地マット12cm）
 ：棒間130～180cm（バーの内側～内側の間隔）
 平均台：125cm（着地マット20cm）
 120cm（着地マット12cm）
 跳馬：125cm（着地マット20cm）

鉄棒の着地マット、追加マットの厚さが異なる場合の目安

| 着地マット | 追加マット | 鉄棒の高さ | マット・鉄棒間 |
|-------|-------|-------|---------|
| 20cm | 10cm | 275cm | 245cm |
| 20cm | 5cm | 270cm | 245cm |
| 20cm | — | 265cm | 245cm |
| 18cm | 10cm | 275cm | 247cm |
| 18cm | 5cm | 270cm | 247cm |
| 18cm | — | 265cm | 247cm |

*鉄棒とマット間245cmを基準にし、他のマット厚の場合は、主催者が高さを決定する。

以上